

口ナ自宅療養 待機78人死亡

型コロナウイルスに感染し、自宅や宿泊療養施設で死亡した人が少なくとも78人に上った。急拡大で病床が埋まり、入院を希望しても叶わない現実が背景にある。意識が混濁し「死んでしまった」と回復後に振り返った感染者。重症化やすい変異株の猛威を前に、現場の医師は「時間が遅れれば救える命も救えない」と脆弱な医療体制に懸念を強めている。【1面参照】

## 感染、重症化「死を覚悟」

「棺おけに片足を突き込んだ感じだった」。今月17日、取材に応じた大阪市の男性(46)は、療養生活をこう振り返った。発熱のため4月16日にPCR検査を受け、陽性が判明した。入院を希望したが、基礎疾患もないため優先順位が低く、自宅療養となつた。

パルスオキシメーターで血中の酸素濃度が95%を下回つたら連絡するようになってから伝えられた。だが、実際に低下してもなかなか入院できなかつた。39度以上の高熱が続き、意識がもうろくとする中、82%まで下がつた段階で

死者の増加に変異株の影響を疑うのは、自宅療養者への往診対応

区町村コードや65歳未満の  
生年月日などを入力してお

もの

衛省 めて

は18日、抗議文へ  
遺憾だ」と話す

た。防  
を両社

りま

「せん」とし

# 埋まる病床 入院できず

中東のパレスチナ自治区が  
ガザは「天井のない監獄」と呼ばれる。イスラエルに境界を  
封鎖され、経済は停滞し、住  
民が劣悪な生活環境を強いら  
れているからだ。

6年前、そのガザから3人  
の中学生が日本にやつて来  
た。移動の自由がないガザの  
人々にとつて異例の旅は国連  
パレスチナ難民救済事業機関

「電気がついている」とつぶやいたという。当時のガザは日に2、3時間しか電気を使えなかつた。

(UNRWA) の協力で実現した。目的は日本の支援者に謝意を伝え、東日本大震災の被災者を励ますためだった。

# 鳥のように自由に遊ぶ

今月、ガザでまた戦闘が激化している。福岡市生まれの医師でUNRWA保健局長の清田明宏さんにメールで連絡を取ると、ガザで活動する同僚らの様子が届いた。

「近くの避難所に物資を届けたいが、危険で行けない。(空爆を免れて)明日まで生きていれば避難所へ行き、彼女を助けてたい」。歯科医の言

神屋 由紀子

葉だ。曰く「職を世話してほしい」と懇願していた若い男性は「とにかく寝たい。空爆の音で全く眠れない」。犠牲者は増え続ける。その数字の向こう側から絶望にちえぐ声が聞こえる。

菅義偉首相のブレーンが口本の新型コロナウイルスの感染状況を「この程度の『さざ波』」と発信した。後手に回る政策で理不尽に命を落とした人や遺族の無念さに思い至らないのか。数字しか見ない言葉の空虚さに慄然とした。ガザではUNRWAの運営する各地の学校がシェルター

となり、4万人近くが身を寄せせる。ガザ事務所で働く吉田美紀さんはこう語る。

「ガザの人々は常に戦争が起ころり得る中で生きている。攻撃がやんだ後もその状況が続くことを知つてほしい」

小さな希望もある。釜石でたこ揚げをしたガイダさんはエジプトの大学で医師を目指していると聞いた。それでも「監獄」の中にいる子どもたちは空や鳥を見上げて、どうほどの希望を見いだせるのだろう。ニュースが伝える数字の向こう側の声に耳を澄ませたい。

可 甘利氏「1ミクロンもない」

河井

冒頭だが、つ割との事送にて

# 二階氏「関係ない」重ね否定

繪とし しり氏長長 当選取もほ

# 甘利氏「1ミクロンもない」

冒頭だが、つ割との事送にて